

これまでの『生活応援運動』から見えてきた現状の課題

人生100年時代を迎え、生涯に渡る生活設計が必要な中、資産形成が計画どおりできていると回答した組合員は約1割に留まっている。

新入組合員の約7割が、学校等で生活設計や家計管理等、金融教育について学んでいないと回答。他の世代も同様の傾向にあると想定される。

高金利ローンの安易な利用や金融トラブル(多重債務や詐欺等)に巻き込まれる組合員が後を絶たない。

組合員への金融リテラシー(お金に対する知識・判断力)の向上を図る取組みが不十分



会員推進機構とともに

“金融教育”

の取組みを展開します。

役割①

「お金に関して考えるきっかけ、気づき」の場とすることで、今後のライフプランを考えていただく機会を提供

役割②

金融リテラシーの向上により、多重債務や金融トラブルを防止

「助け合いの金融」を実践する 福祉金融機関としての役割発揮

金融教育での「きっかけ・気づき」から「相談いただける」活動の展開へ

- 組合員のもっとも身近な金融機関として、会員と連携したアンケートや個別相談会等の取組みを強化します。
- 金融教育を契機に、個々のライフプランに応じた資産形成・資産運用のサポートを強化し、ゆとりある生活設計の実現に取り組みます。
- より使いやすくなったライフエールや住宅プラス500を中心に、組合員の生活を全力でサポートするとともに、引き続き借り換えによる可処分所得の向上に取り組みます。



【取組みのフィードバック】

金融教育説明会実施回数・相談人数、生活応援額、アンケート集計結果、『生活応援運動』実施報告書

会員推進機構との結びつきの強化

会員推進機構とともに、組合員の「不安」・「課題」を相談・解決し、組合員の生涯に渡る生活を応援します。

組合員の不安・課題解決が、共生社会へ寄与するスキームの論議を開始

会員推進機構との取組み成果を地域の子育て支援のNPO団体へ還元する「新たな共生事業」の論議を開始します。